

兄妹揃って日本一！！



令和3年12月6日(月)に第15回JKJO全日本ジュニア空手道選手権大会での優勝を報告するために岩永勝亮選手と岩永唯伽選手が大橋孝町長を訪問しました。兄妹揃っての全国大会優勝報告に町長も大喜びでした。

勝亮選手は「どうしても優勝したい大会だったので、緊張して身体が重く感じた。この優勝に満足せず、さらに勝ちを積み重ね、スター選手になっていきたい」と話し、唯伽選手は「今回はあまり緊張せずに大会に参加できた。更に練習を重ねていき、将来的には大人の大会でも優勝して、世界でも活躍できるような選手になっていきたい」と話しました。

勝負は一瞬、継続は一生



令和3年12月20日(月)に第69回全日本都道府県対抗剣道大会に出場する報告のために小池徳久選手が大橋孝町長を訪問しました。小池選手は上記大会に県代表の大將として出場しました。

町長は「日々の精進の賜物だと思います。県代表として誇りと気迫を持って挑んできてください。また次の世代の選手の育成にも積極的に取り組んでいただきたい」と激励と期待のこぼを贈りました。小池選手は「剣道は49年続けており、生涯スポーツだと思います。今後も一生続けていきたい。また、岐阜県、養老町の剣道を盛り上げるために尽力していきたい」と力強く語りました。

気持ちで負けない、絶対に落とさない



令和3年12月20日(月)にJOCジュニアオリンピックカップ第35回全国都道府県対抗中学バレーボール大会に出場する報告をするため、上村実来選手が大橋孝町長を訪問しました。

町長は「県代表に選ばれるには相当な努力を重ねたことと思います。誇りと自信をもって挑んでください」と激励のこぼを贈りました。

上村選手は「県の代表として誇りを持ち、絶対にボールを落とさないという強い気持ちでプレーしたいです。また、支えてくれた人たちに感謝して大会に臨みたいです」と力強く話しました。